

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活支援技術Ⅱ Independent Living Skill Ⅱ		1年	前期 1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特記なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子／久保由佳	福祉棟2階	初回授業にて説明する	授業中に指示します	
授業の概要				
日常生活の基本行動となる移動の意義や目的、利用者のアセスメントについて学習し、移動が障害されることによる影響を理解する。そして、利用者の状況に応じた、安全で的確な移乗・移動技術を習得する。また、適切な福祉用具の活用により、生活領域の拡大および自立に向けた介護について考えていく。				
授業の目標				
①日常生活における移動の意義を理解し、障害されていることの不自由さや障害を説明できるようにする。 ②基本的な移乗・移動技術を習得できるようにする。 ③移動に関するアセスメントを説明できるようにする。 ④自立支援に向けた福祉用具を適切に選択し活用できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが講義も併用する。演習では、具体的かつ実践的な技術を習得するため、介護者役だけでなく利用者役も体験する。				
学習の成果（学習成果）				
日常生活における移動の重要性がわかり、移動に関する基本的な技術を習得することができる。そして、福祉用具の適切な活用により、日常生活の拡大を図ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスにそって)、日常生活における移乗・移動の意義と目的 (新井)			
第2回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法① 基本体位、良肢位 【演習】 (新井・久保)			
第3回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法② 安楽な体位【演習】 (新井・久保) (レポート1 提出：1週間後)			
第4回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法③ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その1 【演習】 (新井・久保)			
第5回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法④ 上方移動と水平移動、体位変換、端座位 その2 【演習】 (新井・久保)			
第6回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑤ 端座位、移乗(車椅子、ストレッチャー) その1 【演習】 (新井・久保)			

第7回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑥ 端座位、移乗（車椅子、ストレッチャー）その2 【演習】（新井・久保）	
第8回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑦ 歩行補助具による介助の実際(杖、歩行器等) 【演習】（新井・久保）	
第9回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑧ 片麻痺体験、車椅子 その1 【演習】（新井・久保）	
第10回目	安全で的確な移動・移乗介助の技法⑨ 片麻痺体験、車椅子 その2 【演習】（新井・久保） (レポート2 提出：1週間後)	
第11回目	移乗・移動の技術に関するまとめ 【演習】（新井・久保）	
第12回目	移乗・移動に関する生活支援技術習得の確認（実技試験含む） 【演習】（新井・久保）	
第13回目	褥瘡とその予防 同一体位による弊害、褥瘡の原因と予防（新井）	
第14回目	移乗・移動に関するアセスメント、筆記試験（新井）	
第15回目	まとめ 多職種との連携、福祉用具の活用、生活領域を拡大するための工夫（新井・久保）	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	配布資料を活用し自主的にメモしている。演習時は身支度を整え、積極的・自主的に参加している。指導を受け入れ技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。
レポート	20%	1：安楽な体位 S：資料をもとに具体的にまとめている。 2：演習の振り返り S：演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	実技試験20%、筆記試験（選択や記述式）40%の割合で評価する。筆記試験は、授業の内容を踏まえた記述式である。自筆ノートおよび配布資料の持込みを許可する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①教科書 新・介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル		
履修上の留意点・ルール		
講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。実技試験については他科目の実技試験との兼ね合いから、別途提示する。クォーター科目の後半であり、「こころとからだのしくみⅠ」終了後から始まる。		